

事務事業名		集落支援員事業		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画掲載事業	<input checked="" type="checkbox"/> 総合戦略掲載事業	
政策体系	政策名	0 2 安心が確保されたまちづくりの推進		事業期間		
	施策名	0 6 ともに支え合う地域づくりの推進		区分		
	基本事業名	0 1 地区と行政の協働によるまちづくりの推進		単年度繰返		
根拠法令		過疎地域等における集落対策の推進要綱、市集落支援員設置要綱		※期間欄に開始年度を記入		
所属	部課名	協働まちづくり部市民協働課		【開始年度】		
	課長名	新沼 優		平成28 年度～		
	係名	協働係	電話	0192-27-3111		
	担当者	羽根川 恵一	内線	278		
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)				事務事業区分		
<p>人口減少や高齢化が進行がする本市において、住民と行政の協働の下、持続可能な地区づくりに向けた住民の自主的な活動を推進するため、地区の将来像や地区振興策を取りまとめた地区づくり計画を策定する。</p> <p>本事業の実施に当たっては、地区づくり計画の策定等における住民合意プロセスのサポートや、地区の状況把握を行うため「集落支援員」を設置し、大船渡市市民活動支援センターと連携しつつ、地区に寄り添いながら伴走型の支援を行う。</p> <p>平成28年度から集落支援員活動の先行モデル地区として2地区(日頃市地区及び吉浜地区)に支援員1人、平成29年からは2人を配置し、令和元年度からは4人体制で活動範囲を11地区に拡大した。その後、各地区の動きが活発化したことを受け、令和3年度より6人体制としている。</p> <p>なお、集落支援員の設置等に要する経費については、特別交付税が措置される。</p>				A 政策事業		
全体計画(※期間限定複数年度のみ)				総投入量(千円)		
				事業費	国庫支出金	
				財源内訳	都道府県支出金	
					地方債	
					その他	
					一般財源	
					事業費計(A)	0
				人件費	正規職員従事人数	
					延べ業務時間	
					人件費計(B)	0
					トータルコスト(A)+(B)	0

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標

① 手段(主な活動)	⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)								
<p>前年度実績(前年度に行った主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 集落支援員を4人から6人へ増員し、市内最初の地区運営組織として令和3年8月に設立された「ひころいち町まちづくり推進委員会」の事務局・部会活動に対するサポートのほか、市内各地区において、住民アンケート調査や住民ワークショップの開催の実施等を支援した。 令和2年度まで協働推進事業としていた「地区づくりに向けた研修会・勉強会」を本事業に一本化した。 <p>今年度計画(今年度に計画している主な活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区づくりへの住民参画に向けた、地区との関係性の構築並びに意識の高揚に資する取組。 各地区の地区づくり計画の策定や地区運営組織の設立を視野に入れた住民ワークショップの実施に係る支援。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 地区づくり計画の策定・地区運営組織の設立を視野に入れたワークショップ等参加人数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>イ 集落支援員数</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>ウ 地区の意識醸成に係る勉強会等支援数</td> <td>回</td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	ア 地区づくり計画の策定・地区運営組織の設立を視野に入れたワークショップ等参加人数	人	イ 集落支援員数	人	ウ 地区の意識醸成に係る勉強会等支援数	回
名称	単位								
ア 地区づくり計画の策定・地区運営組織の設立を視野に入れたワークショップ等参加人数	人								
イ 集落支援員数	人								
ウ 地区の意識醸成に係る勉強会等支援数	回								
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等	⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)								
・地区	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>カ 集落支援員を活用した地区づくり対象地区</td> <td>地区</td> </tr> <tr> <td>キ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	カ 集落支援員を活用した地区づくり対象地区	地区	キ		ク	
名称	単位								
カ 集落支援員を活用した地区づくり対象地区	地区								
キ									
ク									
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)								
・行政と協働して地区の課題を自ら解決し、住民主体の地域づくりを実現するため、地区住民による地区の将来像や生活課題等を取りまとめた地区づくり計画の策定や計画の実践を担う地区運営組織の設立を支援する。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>サ 地区づくり計画を策定した地区数</td> <td>地区</td> </tr> <tr> <td>シ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ス</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	名称	単位	サ 地区づくり計画を策定した地区数	地区	シ		ス	
名称	単位								
サ 地区づくり計画を策定した地区数	地区								
シ									
ス									
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)									
・住民と行政の協働の下、地区の実情や時代に対応した集落の維持及び活性化対策が促進され、住民主体の持続可能なまちづくりにつながる。									

(2) 総事業費・指標等の推移

	単位	年度							
		2年度(実績)	3年度(実績)	4年度(実績)	5年度(目標)	6年度(目標)	7年度(目標)		
投入量	事業費	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0	0
		都道府県支出金	千円	0	0	0	0	0	
		地方債	千円	0	0	0	0	0	
		その他	千円	0	0	0	0	0	
		一般財源	千円	12,318	19,140	20,044	25,248	26,124	24,863
	事業費計(A)		千円	12,318	19,140	20,044	25,248	26,124	24,863
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1	1
		延べ業務時間	時間	100	100	100	100	100	100
		人件費計(B)	千円	400	400	400	400	400	400
		トータルコスト(A)+(B)		千円	12,718	19,540	20,444	25,648	26,524
⑤ 活動指標	ア	人	145	192	792	400	0	150	
	イ	人	-	6	6	6	6	6	
	ウ	回	-	10	5	4	0	1	
⑥ 対象指標	カ	地区	11	11	11	11	11	11	
	キ								
	ク								
⑦ 成果指標	サ	地区	0	1	2	9	11	11	
	シ								
	ス								

事務事業ID	1759	事務事業名	集落支援員事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 当市は、若年層中心とした転出超過による少子高齢化が進行し、人口減少の加速と人口密度の希薄化が拡大する見込みとなっている。このため、地区や地域では、若年・壮年層の減少により地区活動の担い手が不足し、住民間の互助機能の低下や孤立世帯が増加する。一方、行政においては行政ニーズの多様化が想定されるが、人口減少に伴う税収の減少が見込まれ、従来手法での行政サービスの提供が困難となることが予想される。このことから、地区住民が主体となる持続可能なまちづくりを推進するため、平成29年2月から先行モデル地区として日頃市地区及び吉浜地区の2地区に集落支援員を設置した。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 年次的に集落支援員を増員しながら、令和元年度には活動対象を市内全11地区に拡大し、同年度から、協働のまちづくりの先行地区と位置づけた日頃市地区において、地区づくり計画の策定や地区運営組織の設立を視野に入れた「地域づくり住民ワークショップ」が開催された。るとともに、令和2年10月に「住民自治の推進と協働による新しい地区コミュニティの創造指針」策定後、令和3年8月に日頃市地区、令和4年11月に越喜来地区において地区づくり計画が策定されるとともに、計画を実践する地区運営組織が設立されたほか、他地区においても持続可能な地区づくりに向けた活動が活発化しており、大船渡市市民活動支援センターと連携しながら支援に当たっている。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 地区と行政のあり方を見直し、地区と行政が協働して乗り越える新たな関係・体制を検討・構築する必要があること、先行モデル地区として日頃市地区及び吉浜地区の2地区において、集落(資源)点検等ワークショップや地区特性に応じた活性化策の検討等に取り組むことについて、平成28年10月の地区公民館長会議において説明し、了承を得ている。日頃市地区及び越喜来地区においては、地区づくり計画の具現化に向けた実践活動の段階に移行しているほか、各地区で意識の醸成が図られており、研修会の実施や住民ワークショップの開催等、協働のまちづくりに向けた動きが活発化している。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている	▽ 理由・内容 自立的に課題を解決できる地区の体制づくりの支援に取り組むことから、政策体系と整合している。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である	▽ 理由・内容 地区と行政のあり方を見直し、協働して乗り越える新たな関係・体制を検討・構築するにあたり、地区特性に応じた活性化策の検討のほか、実行組織づくり等の支援を行うことから、妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である	▽ 理由・内容 地区を対象とし、住民と行政の協働の下、地区の実情や時代に対応した集落の維持及び活性化対策を促進することから、適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない	▽ 理由・内容 先行モデル2地区で取組開始後、令和元年度から4人体制とし、活動範囲を11地区に拡大した。各地区で意識の醸成が図られており、協働のまちづくりに向けた動きが活発化していることから、令和3年度から6人体制とし、今後の成果の向上余地がある。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がない <input checked="" type="checkbox"/> 影響がある	▽ 理由・内容 既存の地区単位組織等との整合を図りつつ、行政と協働して地区の課題を自ら解決し、住民主体の地域づくりを牽引する地区単位の運営組織の設立と安定した活動・運営を目標とし、継続して実施すべきである。
効率性 評価	⑥ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 地区づくりワークショップの開催支援に係る事業費のみであり、今後の横展開により集落支援員の増員や、ワークショップの開催回数の増加が見込まれるため削減の余地がない。 集落支援員活動(集落点検の実施、集落のあり方についての話し合いの支援等)の事業費のみで、削減の余地がない。
	⑦ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずに正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	▽ 理由・内容 既に集落支援員や大船渡市市民活動支援センターと連携して地区づくりワークショップの開催支援に当たっており最低限の人員で対応していること、今後の横展開によりワークショップの開催回数の増加が見込まれることから削減の余地はない。集落支援員の勤怠管理及び取組の推進にあたっての支援が主な業務のため、削減の余地がない。
公平性 評価	⑧ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	▽ 理由・内容 地区と行政のあり方を見直し、協働して乗り越える新たな関係・体制を検討・構築するにあたり、地区を対象とし、住民と行政の協働の下、地域の実情や時代に対応した維持・活性化対策を促進することから、公平・公正である。

3 今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 改革改善の方向性	(2) 改革・改善による期待成果	(3) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等																				
2 改革改善(縮小・統合含む)	<table border="1"> <tr> <td></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td></td> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td>向上</td> <td></td> <td>●</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>		コスト				削減	維持	増加	向上		●		維持			×	低下		×	×	<p>地区と行政の今後の在り方に係る検討と連動し、協働のまちづくりを一層推進するため、地区とより深くコミュニケーションを図ることにより、地区と行政の調整役として信頼を高めつつ、地区運営に関するアドバイザーとしての立場を確立していく必要がある。</p> <p>また、各地区で協働のまちづくりに向けた動きが活発化しており、地区づくり計画の策定を視野に入れた住民ワークショップ等の開催や、計画に基づく実践活動を支援するなど、地区住民が自主的な活動を継続できるよう 集落支援員による伴走支援を継続する必要がある。</p>
	コスト																					
	削減	維持	増加																			
向上		●																				
維持			×																			
低下		×	×																			
※(1)改革改善を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入。 (現状維持の場合、コスト及び成果は「維持」) (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						

4 課長等意見

(1) 今後の方向性	(2) 全体総括・今後の改革改善の内容
2 改革改善(縮小・統合含む)	地区の実情に応じた住民主体のまちづくりに向け、地区の現状や課題、将来展望等に係る住民相互の話し合いが促進されるよう、地区とより深くコミュニケーションを図るとともに、ファシリテーション、広報紙編集等、集落支援員の業務スキルを高める機会を十分に確保する必要がある。また、地区運営組織が設立された地区に対しては、事務局の機能発揮に資する伴走型の支援について、特に強化する必要がある。